

(5) 歴史と文化教育部会

教育部会名	歴史と文化部会
部会長名／作成者名	大田美佐子
概 要	
(1). 組織・運営について	
<p>本年度の歴史と文化教育部会は人文学研究科・国際文化学研究科・人間発達環境学研究科(人間発達専攻表現系講座)の教員から構成されており、西洋史、美術史、芸術史、アジア史、東洋史の授業を提供した。</p>	
1-1 組織運営の問題点について	
<p>TA の配分は、予算決定の都合上、年度末から年度始めにかかって決定される。特に後期は夏季休暇をはさむので、TA と当該教員、総務の連絡を緊密にとることが求められる。</p>	
(2). 実施状況について	
1 教育内容	
<p>シラバスによれば、扱う対象は時代的にも幅があり、また地域も多様性に富む。また狭義の歴史だけでなく、広く歴史に関わる文化的・経済的な内容が用意されている。このように当部会の提供する教育内容は、教員数相応に幅広い分野にわたっており、受講生の多様な関心に呼応している。また当部会の科目は、本学のグローバル人材育成推進事業が目指す二つの能力、「多様な価値観を尊重する」「異文化・日本文化を深く理解する」にも合致している。</p>	
2 教育方法	
<p>授業の形態は講義形態が主流であり、授業アンケートでは、概ねよく理解され有益であったと回答されている。またコメントや感想欄の活用によって学生の意見をすくい上げる工夫がなされている。</p>	
3 クォーター制への対処	
<p>クォーター制に関しては、負担や内容に関する教員側の違和感があるが、第 1 クォーターと第 2 クォーターで異なる内容を提供するなど、学生がひとつの科目についてより多様な内容を学習できるように配慮して、日本史、西洋史などすべての科目について A と B を用意している。しかし実際は、A と B の両方を履修する学生はさほど多いとは言えず、また A と B に分けても、結局導入部分は同じ内容を繰り返さなければならないということが指摘されている。</p>	
(3). 課題および総合所見	
<p>歴史と文化部会の提供授業は、全体としてバランスの良い多様な科目を提供しており、また授業振り返りアンケートによる理解度・総合評価も高い。20120 年度、歴史と文化教育部会は外部評価年にあたるが、三つの学部に分かれ、バラエティーに富んだ授業を提供するいっぽうで、TA 決定のプロセス、あるいは非常勤の分担や決定、あるいは在外研修時の分担の調整など、学部を跨るとわかりにくい部分が多</p>	

い。ましてや、科目によっては学部に跨って担当しているので、部会長、幹事、事務の連絡を密接にしていく工夫が求められると感じた。

A 組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか

人文系、国際文化学系、発達系と3系統に分かれている。それぞれに幹事を置いている。全体像が見えにくいいため、連絡の不行き届きが生じてしまったり、申し送りや引き継ぎが十分でない点があった。

根拠資料

教育部会構成員名簿、メールでの連絡など

B 内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか

授業振り返りアンケート結果などから、それぞれの教員がそれぞれの担当教科に反映させるべく、真摯に対応していると考えられる。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか

前年度までの自己点検・評価報告書を、各教員がシラバスや、課題の取り組みに反映させている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバスの今年度の工夫

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか

ピアレビューを実施し、参加して意見を反映させるというプロセスを実施している。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（国際教養教育委員会資料）

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

実施している。ただし、TAとSAにおいては、後期の教員に周知するタイミングが夏季休暇をはさむため、科目担当教員とTA、総務の間の連絡がしっかり取れるように配慮する必要がある。

根拠資料

神戸大学SA/TA実施要領・ガイドライン、SA・TA採用者名簿、TAハンドブック

C 教育課程と学習成果について

①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか

各教科の授業目標は、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっている。

根拠資料

シラバス

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか

各授業担当者は、シラバスにおいて、到達目標のなかで、共通目標や学部からの要請を反映している。

根拠資料
シラバス

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか

授業科目の内容は、それぞれ共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料
シラバス

④単位の実質化への配慮がなされているか

シラバス、小テスト、レポート課題などを通じて、単位実質化への配慮がされている。

根拠資料
シラバス、課題、小レポート、小テスト

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか

講義、演習の授業形態の組み合わせ・バランスは、それぞれの教科の教育の目標に照らして、それぞれの教育内容に応じた適切な指導法が工夫されている。

根拠資料
シラバス

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか

シラバスは全項目に記載されている。

根拠資料
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

学生のニーズに応えるべく、履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われている。

根拠資料
シラバス

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

授業前後の質疑応答や面接時間の周知など、学生に対する適切な指導、助言がされている。

根拠資料
シラバス、レポート課題のコメント欄

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

科目単位で、成績分布に対して、適正であるかどうか確認したうえで、改善の周知などを行っている。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

授業振り返りアンケートを通して、適切な学修目標が得られているか、確認されている。

根拠資料

授業振り返りアンケート、レポートなどのコメント欄